ひめゆり通信

第154号
2018年6月22日号
http://hozanji-wel.org/

主な目次

- 巻頭言 …… 1
- 滝寺お花まつり …… 2
- 新規採用職員　辞令交付式・研修会 …… 4
- 高齢者施設からの報告 …… 6
- 児童施設からの報告 ……10
- 人事 ……15
- 就任挨拶 ……16
- 事業活動計算書・資金収支計算書 ……19
- 法人苦情第三者委員会 ……20

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

元興寺創建1300年

宝山寺福祉事業団理事長　辻村　泰範

去る5月19日、明日香村石舞台の前で蘇我馬子の功績を称え、供養する法要が営まれました。元興寺の創建1300年を記念する一連のイベントの一つでした。私たちにとって最もご縁の深いお寺の一つ、元興寺1300年の意義を考えてみます。

今から2500年程昔、ルンビニ（ネパールに遺跡が存在する）でお誕生になったゴータマ・シッダルタは厳しい苦行の後、山を下りてナイランジャー川のほとりで禅定にはいり遂に悟りを開かれた。悟りを得た人という意味で人々は彼をブッダ（覚りを得た人という意味のサンスクリット語）と呼び、あるいは彼がシャーキャ族（漢字で釈迦族）の王子であったことから釈迦族の聖者という意味でシャーキャムニ（漢字では釈迦牟尼あるいは釈尊）と呼んで敬慕した。彼の思想や教えは覚りを得た人の教え、あるいは覚りを得るための教えという意味でブッダの教え、仏法や仏教という。

仏教は、仏陀の死後もその弟子たちによりその思索が深められ、インドという風土や当時の思想的背景も様々に影響を受けながら発展していった。仏教はその発展過程において小乗仏教（上座部）と大乗仏教（大衆部）に大きく分かれていく。特に大乗仏教においては世俗的な習俗や信仰の取り入れとともに、論理的、哲学的傾向を強く持つようになった。

インドからチベット、中国、朝鮮半島を経て日本に伝わったいわゆる大乗仏教の中心的な思想は「中観、唯識」と呼ばれる哲学的な思索でした。いわばそれは人間のこころやいのちの不思議を見つめ、自分と向かい合い、畢竟いのちのありがたさを突き詰めてゆく学問でもありました。

日本で最初に建立された本格的な寺は、蘇我馬子によって飛鳥の地に建立されました。その地名をとって飛鳥寺または最初に法が興るという意味を込めて法興寺、あるいは元興寺と名付けられました。大乗仏教の最も重要でかつ中心的な教えである三論宗（中観思想）と法相宗（唯識思想）が初めて日本に伝えられたのも、この法興寺でした。日本で最初の本格的な寺院として有名ですが、日本の仏教思想史の上からは、行基の師匠としても有名な道昭が本格的な仏教思想や教学をこの寺に初めて伝え、ここを中心に広められたということにこそ、重要な意義を認めるべきでしょう。

都が平城京に移されたことに伴い、寺も移されて元興寺と呼ばれるようになりました。今年は平城京に元興寺が創建されて（718年）から丁度1300年になるのです。近年の研究で現在の元興寺に使われている木材の一部が飛鳥寺創建の頃に切りだされた木材であることが確認され、瓦などとともに飛鳥寺の建物の一部が転用されて今も残っていることがわかっています。世界文化遺産に認定された要素の一つでもあります。

一時は、南都七大寺の一つとして東大寺に次ぐ大規模な墾田の所有を認められるなど、南都仏教の中心的な役割を果たしました。弘法大師の弟子泰範や弘法大師の師僧勤操とともに日本の体系的な福祉事業としての文殊会を広めた泰善も元興寺の僧でした。

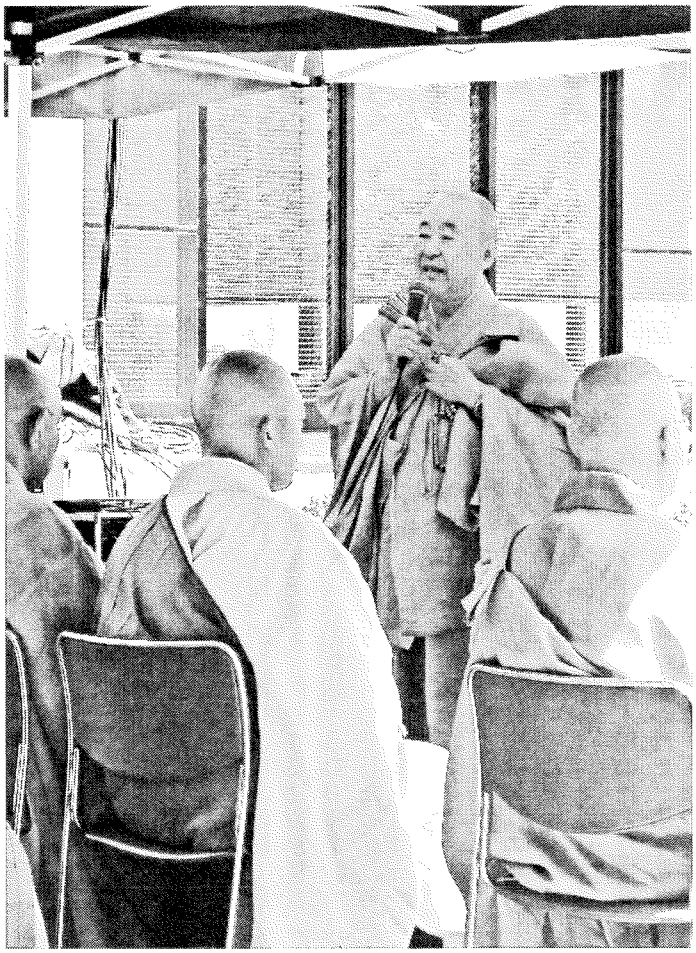
元興寺の僧坊に住した智光法師は、奈良時代の三論宗の学僧として著名な僧ですが、智光法師が描かせたと伝えられている浄土の様子を描いた絵図は智光曼荼羅と呼ばれ、中世には「世争ってこれを写す」と言われるほど信仰をあつめ、世間に流布しました。今の元興寺の本堂、極楽堂はその昔智光法師が観想浄土の瞑想行を積まれて遂に極楽往生を遂げられた奈良時代の僧坊そのものを聖堂としたものと伝えられ、いつしか極楽往生を願う庶民の信仰のメッカとなっていました。この寺に残された多くの中世庶民信仰資料は当時の信仰の実態を示す貴重な資料として重要有形文化財に指定されています。しかし時代とともにその勢いは衰え、南北四町東西二町を占めた伽藍（寺の境内）も今では、西の小塔院跡である小塔院、東の大塔の跡である元興寺（芝新屋町）と僧坊（僧侶が住み、座禅や学問修行を行っていた宿舎）の遺構を今に留める元興寺（中院町・世界文化遺産）の三ヶ所が残っているに過ぎません。しかしその輝かしい歴史や法統は消え去るものではありません。現在我々が最も日常的にお唱えする般若心経が、大乗仏教の中心的な思想である中観思想（空の思想）を説く般若経典群のエッセンスともいうべきお経であり、それはかつて元興寺に初めて伝えられた三論宗の教えを凝縮するものであることを考えると、元興寺が果たした歴史的役割とその意義について改めて感慨を深くするのです。

滝寺お花まつり

老人総合福祉施設あくなみ苑
実行委員長 小森 康志

平成30年4月22日（日）に滝寺お花まつりが開催されました。当日は、雲一つない晴天のお祭り日和でした。

滝寺お花まつりは、お釈迦様の誕生をお祝いする仏教行事であるとともに、日頃から宝山寺福祉事業団にお世話になっている地域の方々、関係者に対して感謝の気持ちを表す場であり、また法人職員同士の交流の場でもあります。



辻村泰範理事長　挨拶・法話

私が平成30年度の滝寺お花まつり実行委員長をさせて頂くことになったのは、昨年度の滝寺お花まつりの反省会での話がきっかけでした。「次の実行委員長はどこに？」という話が出た時に、次はあくなみ苑！ということになり、反省会に出席していた私がさせて頂くことになりました。その場で、決意表明をさせて頂きましたが、私の胸の中は「当日に雨が降ったらどうしよう。」「雨男って言われることもあるし…」と天気への心配が一番でした。ここ数年は天気の良い日に開催していますが、今年は「私が雨を降らすんじゃないか？」そんな不安が一杯でした。

滝寺お花まつり実行委員長として、実際に活動し始めたのは今年の1月下旬からです。昨年度の極楽坊保育園大槻実行委員長に引き継ぎをしてもらい、色々なアドバイスを頂きました。昨年度から、実行委員を班分けし、各担当で担当業務を進めていくようにされていました。各担当班に役割を分担することで、実行委員全体で準備を進めていくことが出来ます。今年度も同様に進めていこうと考え、1月下旬から、実行委員の募集を始め、第1回実行委員会までに名簿を作成し、各担当班を決めていきました。これは昨年度に極楽坊保育園　辻村副園長が考案されたものであり、大槻先生から引き継ぎをしていただいた事でもあります。これを引き継ぎ、今後に繋げていきたいと考えました。また、今年度の実行委員の一人に副実行委員長を担ってもらい、来年度には実行委員長になってもらうことを考えました。そうすることで、実行委員長の業務が引継ぎやすくなります。仔鹿園の田中相談員に副実行委員長を担って頂き、サポートして頂きました。

総務部長からは、お花まつり第2部は実行委員長のカラーが出るようにとお話があり、どのようなレイベントをするかを考えました。そこで考えたのが、「私たちの施設を知ってもらおう！おもしろ自己アピール大会！」でした。なぜこのイベントを考えたのかというと、法人の各施設が集まっているのに、地域の方々に私たちのこと知ってもらえているのか？という思いがあったからでした。せっかく一同に集まっているのに、屋台をするだけではもったいない、もっと私たちの施設や人物を知ってほしいと思いました。そこで、各施設に自由な方法で、おもしろく施設や職員の紹介をしてもらうことにしました。

実行委員会を中心に準備を進めていきながら、刻一刻と日が近づいていきました。お花まつり当日の10日前から、「晴れてくれ！晴れてくれ!!」と毎

野宴会場にて

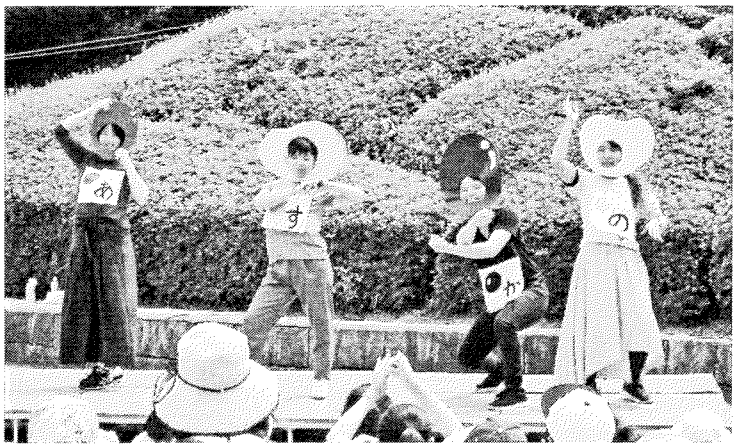
フィナーレイベント一幕

日祈るようにインターネットで天気予報を見ていました。花まつり1週間前には、大雨があり法人本部が土砂災害に見舞われましたが、花まつりの事前準備日であった4／19には、実行委員会も手伝い、土砂の掃除を行いました。皆様のご協力のおかげで、無事にお花まつりを迎えることが出来ました。

お花まつり当日は、これ以上ないくらい良い天気で、ほっと胸を撫で下ろしたことを覚えています。第一部では、お稚児さんたちが先導されながら滝寺本堂まで練り歩き、灌仏法要が執り行われました。童笑の演奏や女性施設長によるコーラスで華を添えて頂きました。辻村泰範住職の法話・挨拶の後に、愛染の鐘と共に第2部が開始しました。

第2部では各施設より、お祭りで恒例の食べ物や、バザー、子供たちが喜ぶ遊びの模擬店で賑わいました。似顔絵さんによる似顔絵コーナーや、かざぐるまさんによるクッキー販売、ひだまりさんによる綿菓子やラムネ販売、関西電力さんによるストラックアウト、元興寺文化財研究所による飲み物販売など、外部のボランティアの方々にご協力を頂きました。また、今回は喫茶コーナーでハンドベルさんや笛吹クラブさんに、喫茶を味わいながら、音楽を楽しめるようにと演奏をして頂きました。スタンプラリーでは、動物のお面を付けた職員が会場に散らばり、子供たちがスタンプを貰うために会場中を探し回り、見つけた時には喜んでいる姿も見かけました。フィナーレイベントでは、児童施設の可愛い歌や踊り、また高齢者施設の艶やか扮装をした演劇や踊り、漫才など、様々な形での面白い紹介があり、ご来場頂いた方々の笑い声なども多く聞こえ、皆様に楽しみながら私たちの事を知って頂けたのではないかと思います。

最後に、ご来場頂いた皆様や地域の皆様、ボランティアの方々、また法人職員の皆様や実行委員の皆様にご支援頂いた事で無事に終えることが出来ました。皆様に支えて頂いた事、感謝しております。本当に有難うございました。来年度も、ご支援頂けますように宜しくお願い致します。



フィナーレイベント一幕

平成30年度 新規採用職員 辞令交付式・研修会

人事・研修部長 辻村泰聡

春は別れの季節でもありますが、また新たな出会いの季節でもあります。新年度から、法人職員として採用される職員の辞令交付式と、新採用職員に向けた研修会を実施しました。今年度採用されたのは、正規職員45名、契約職員9名です。新卒で社会人としての一歩を踏み出す職員、子育てがひと段落して再スタートする職員など、境遇や抱く思いは人それぞれですが、4月からは配属先施設で活躍してくれることを期待しています。

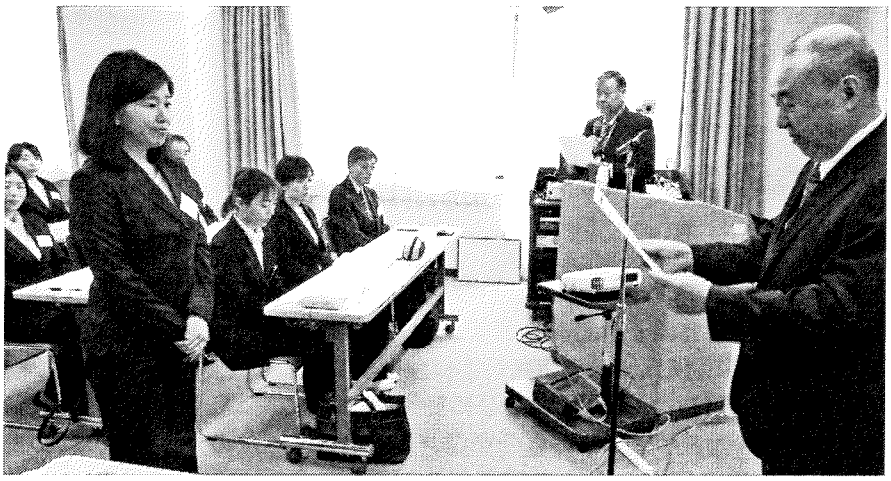
正規職員は3月28日・29日の2日間にわたり、初日は施設見学、2日目は辞令交付式・研修会を実施しました。また、契約職員は28日に辞令交付式・研修会を実施しました。

〈施設見学〉

法人内の各施設と、所縁の深い宝山寺・大乗滝寺・元興寺をバスで回って見学しました。法人のルーツである宝山寺や滝寺、自分の配属先以外の施設、専門外の分野の施設も実際に見て知ってもらう機会になりました。

〈辞令交付式・訓示〉

まずはじめに、正式に法人職員として採用する証として、理事長から新採用職員一人一人に採用辞令をお渡しました。姿勢を正し、名前を呼ばれて前に出ていくときには緊張した表情でしたが、辞令を無事に受け取ると、少しほっとした表情になったのが印象的でした。これに続いて、理事長から訓示がありました。法人の歴史、どのような人たちがどのような思いでこの仕事に携わってきたのか、また、これから法人職員として期待すること・求めることについて、お話されました。

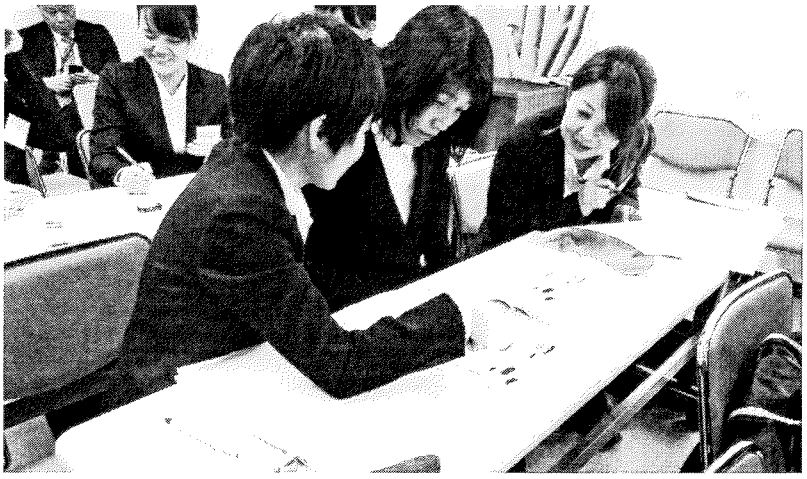


〈コンプライアンス〉

延寿の井上施設長の担当で、コンプライアンス（法令順守）についての講義でした。職員として働く上でのルール、倫理について、辞令を交えながらのお話でした。法令や規則を守ることは、我々職員が社会的な責任を果たす上で大切なことではありますが、ルールで罰則があるから守るということを越えて、自らを律し、自分の信念として守るということが目指すべき姿であるということでした。

〈理解力・伝達力
～高齢者施設の現場から～〉

梅寿荘の堀本介護主任の担当で、コミュニケーションスキルの基本である理解力・伝達力についての講義でした。職場の中での伝達や、利用者さんとのやりとりの中で、とらえ方や伝え方を間違ってしまうことで大きなミスやトラブルにつながることがあります。簡単なゲームを通じて、伝えることの難しさや大切さについて学びました。また、利用者目線でケアを受けている再現動画を見ながら、伝え方ひとつで受ける印象の違いを知ることができました。



〈リスクの理解
～児童施設の現場から～〉

こども支援センターあすなろの佐伯主任の担当で、施設内で起こる事故をなくし、安全な環境づくりのための基本としてのリスクの理解についての講義でした。日常の職場に潜む危険に気付くことや、一人の気づきを組織全体の気づきとして共有することの大切さについて、ワークを行いながら学びました。また、施設における感染症対策についても、一般家庭とは違ったレベルでの対応が求められることについても学びました。

〈接遇・マナー〉

契約職員は仔鹿園の岡本園長、正規職員はフェリアンの津村薫先生による接遇・マナーについての講義でした。組織で働く者として、また対人援助の仕事をする者として、人と接するときの基本的な姿勢や態度について分かりやすく教えていただきました。笑顔や表情、言葉の掛け方ひとつで、相手に与える印象が大きく変わってしまうことがありますが、相手ばかりではなく、イライラしたり、怒ったりする自分のことをよく理解し、その気持ちをコントロールすることも大切だとおっしゃっていました。

高齢者施設からの報告

あくなみ苑

あくなみカフェ始めます

介護リーダー　宮北　典子

こんにちは、あくなみカフェ実行委員長を務めさせて頂いています『宮北典子』と申します。そのあくなみカフェを成功させるに当たり、この度実行委員会を結成しました。

当カフェの目的は、御利用者並びに御家族が和やかに楽しいひと時を過ごして頂ける場所を提供したいと思ったのが始まりです。いつもと違った雰囲気のなかで色々な飲み物やスイーツを提供していつもと違う美味しさを味わって頂き、御家族や御利用者、そして職員も一緒に笑顔で過ごして頂ける空間となるようにしたいと思っています。

現段階では、カフェのスペースの確保、それに伴い給排水工事も必然とされてくる為、総合的に利便性の良い場所をと考えております。

今のあくなみ苑に無い物を作るのです。あくなみカフェと言う、皆が淹れたてのお茶やコーヒーなどを飲みながらホッコリ出来る場所を。こだわりたいのは手作り感と人の暖かさのあるサービスだと思っています。

現在多々ある課題も、実行委員会（介護職員・管理栄養士・相談員・施設長・看護師）が一丸となって切磋琢磨しながら取り組んでおります。

あくなみカフェに辺り、皆様のご意見やご要望等ありましたら、貴重なご意見として是非参考にさせて頂きますので、職員や事務所にお伝え頂けたら幸いかと思いますので、是非実現に向けて皆様の御協力と御理解の程、よろしくお願い申し上げます。

梅寿荘居宅介護支援センター

自立支援のケアプラン作成を目指して

介護支援専門員　和田　恵美子

介護保険の制度では、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療、介護、予防、生活支援等が一体的に提供される地域包括システムの構築を目指しています。本年は３年に一度の介護報酬改定があり、医療介護の連携において、生駒市では「やまと西和ネット」が４月からスタートし切れ目のない在宅医療と介護の提供体制に取り組んでいます。

私たちケアマネージャーは一人暮らし、老老介護、認知症など要介護の利用者さんに寄り添い、ご本人、ご家族の意向を尊重し自立支援のケアプランの作成に努めています。その方にとって適切なサービスや社会資源の提供など、過度な援助で自立を阻害することのないように努めています。又、時には一人で抱えられないような困難な事例に出会った時は、週一回のケアマネ会議の中で課題解決に皆で取り組んでいます。梅寿荘居宅介護支援センターでは迅速、丁寧をモットーに８人のケアマネージャーが日々業務に励んでいます。

在宅介護支援センター 地域支援室

地域の繋がり

室長　三家　京子

滝寺公園の一角にたたずむ「憩の家」宝山寺川の瀬音に小鳥のさえずり、秋には咲き誇る藤袴に、飛来するアサギマダラを見ることができ、四季折々様々な花木に囲まれ、自然豊かな所、訪れる方々に安らぎを感じていただいております。「憩の家」内に開設された地域支援室も6年目を迎えました。競技かるたの練習をはじめ、サロンから始まった地域支援事業も地域の方々の声で、詩吟・俳句・健康麻雀・絵手紙、地域の方が講師として指導していただく教室も増え多くの方が活発に、楽しく参加されています。「防災と言わない防災」ご近所同士の繋がりとお付き合い、声掛けが「ちょっと防災」なっていると聞いております。笑顔で繋がり、住み慣れた地域で、お元気で過ごして頂けるお手伝いができればと思っております。

書道

デイセンター寿楽

新年度を迎えて

主任生活相談員　中島　淳

私事ではありますが昨年９月よりデイセンター寿楽に異動してから、サービスを利用して頂いている御利用者の皆様の御理解や、一緒に働く仲間に支えられながらあっという間に新年度を迎える事ができ、改めて感謝している次第です。さて、新年度を迎えるにあたって介護保険制度の改定がありましたが、介護保険料の値上げや利用負担の引き上げなど、良い話ばかりではありませんでした。このような社会情勢のなかで高齢者の方が介護を必要とした時、デイサービスに求められるサービスの質も当然高くなって行くと考えられます。デイサービスを利用する事で介護の重度化を予防し、住み慣れた地域での生活が継続できるだけでなく、満足感や質の高いサービスを提供していく事が必要となってきます。そこで、今年度からはデイセンター寿楽でもこれまで以上にきめ細やかなケアを提供できる様に体制を整えました。業務内容の見直しや個別機能訓練の実施、リハビリレクの充実や認知症高齢者の方への個別ケアなど、より専門的なサービスを提供できるように取り組んでいます。現在のデイセンター寿楽は、御利用して頂いている方の５割以上が要介護３以上のデイサービスです。様々な理由で身体的な介護が必要となった方や、認知症により日常生活に援助が必要となった御利用者に対して、これまで以上に専門的で質の高いサービスを提供できる様に施設内、外の研修を通して職員一同スキルアップしていきたいと考えています。

梅寿荘デイセンター

地域一番サービスを目指して

生活相談員　中井　耕大

梅寿荘デイセンターが力を入れて取り組んでいることの一つに機能訓練があります。私たちの機能訓練には、敷地内の児童施設の子供達とふれあえる環境を活かした屋外歩行訓練や、運動機器を使用した筋力トレーニング、更にリハビリ専門職が直接実施をさせていただくトレーニングなどがあります。微力ながら、ご利用の皆様の機能維持・向上に繋ぐことができていることと思います。

しかし、計画的に提供が出来ているかというと未だ不十分な所も多々あります。今年度の目標として、機能訓練という取り組みに肉付けをして、地域の方々に「梅寿荘デイセンターにはあの機能訓練がある」と知っていただけるサービスに作り上げることを掲げています。個別の目標設定、実践内容の検討、定期的な評価がしっかりと行えるよう、それにより、ご利用の皆様の日常生活が豊かになるよう努めて参ります。

今年度、介護保険制度改正を迎え、通所介護事業においても様々な改正がなされました。態勢を整えるため、スタッフ全員で研修の時間を取り、社会情勢を捉え改正内容についての理解を深めています。改正内容には、機能訓練に関わる事項も含まれており、どのようにすれば実践出来るか、ご利用の皆様に、より質の高い機能訓練が提供出来るかを考えています。

書類の作成業務や評価データの収集、実施する人員の不足など課題が多くある中で、過去の実績を活用し、現在出来ることを精一杯、未来に向けてスタッフ一同邁進して参ります。

今年度も梅寿荘デイセンターをよろしくお願い致します。

下肢の機能向上

頑張ってリハビリ！

延寿

ご家族の力の賜物

介護主任　津田　光永

日頃より利用者様との関係作りはもちろんですが、ご家族との関わりも大切に考えています。ご利用者の生活をどう支えていくのか、何ができるのか、これでいいのか…等、たくさんお話し、関係が深まることで「ご利用者をご家族と一緒に支えている」と感じながら日々の業務に向き合えることは、私たちにとってがんばれる糧となります。いつも気持ちに向き合ってくださりありがとうございます。

延寿創立18年目を迎え、ご家族の思いがそれぞれの形となって支えられていることに気付かされます。恒例となった年に２回の障子・車いす掃除には「日にちが決まったら教えてね。予定を空けて参加するからね」と声をかけて下さるご家族。また、お母さまのことを話すうちに「大好きなピアノを聞かせてあげたい」との思いから月に２回、他ご利用者も集まりピアノ演奏をして下さるご家族。選曲も「楽しく、穏やかな時間を」と毎回考えてくださり、その思いは皆さんに届き、目を閉じリズムをとり、いつにないうっとりとした表情がみられます。

延寿からお別れした利用者様のご家族の中にも、喫茶や行事のお手伝いをしてくださる方がおられます。私たちもかつて過ごした故人との日々を思い出しながら、継続して気にかけて下さっているお気持ちにとても感謝しています。

そしてこの場を借りましてボランティアの皆様にも感謝申し上げます。日頃職員だけでは出来ないひと時をご利用者に提供していただき、生活の刺激・笑顔につながっています。

これからもよろしくお願いいたします。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

主任ケアマネジャーとして

主任　坂本　ひとみ

平成３０年度生駒市第７期介護保険事業計画が策定されスタートしました。その中には地域支援事業の充実が盛り込まれています。地域支援事業は、介護給付や予防給付のサービスと並んで、介護保険制度の３つの柱の一つです。主な事業として、総合事業・包括的支援事業・任意事業から構成されています。総合事業は要支援認定者や事業対象者（要支援相当）を対象とした「介護予防・生活支援サービス事業」と、６５歳以上の高齢者を対象とした「一般介護予防事業」の２本柱で構成されています。生駒市では、平成２７年から全国に先駆け要支援者等の心身の状態像に応じたサービスが提供できるよう、集中介入期、移行期、生活期に区分けし、総合事業を展開してきました。この総合事業の進展に伴い、昨年度は生駒市ケアマネジャーハンドブックの内容（制度変更、帳票類差し替えや追加等）更新を、市と市内地域包括支援センターの主任ケアマネジャーが中心となり、居宅支援事業所のケアマネジャーと連携して行いました。今年度も介護保険制度の変更に伴い引き続き変更を行い、個々のケアマネジメントが円滑に進んでいくように、地域包括支援センター主任ケアマネジャーの業務の一つである後方支援を実施していきたいと思います。

また事業計画には介護予防ケアマネジメントの質の向上も方向性として示されています。私たちのセンターでは新しく加わったメンバーと共に、対象者の方々へ適切なケアプラン作成とサービス提供ができるよう、一緒にスキルアップし「すべての地域の方が、支え支えられながら住み慣れた地域で可能な限り自分らしくいつまでも安心して暮らせる町いこま」を目指して頑張っていきたいと思います。

はあとぽーと梅寿荘

引き継がれる思い

主任　金田　智子

新年度を迎え、新たに三名が正職員になりスタッフが充実した反面、平成二年に、はあとぽーと梅寿荘が発足して当初からかかわって下さった方が退職される悲喜こもごものスタートになりました。

まだまだ、いろいろなことを教えて頂きたかったのですが…。辞めるに当たり発足当時のお話を伺いました。今のように、介護保険の制度が確立される前は、時間や内容も緩やかで、長い時間の訪問や宿直しながら深夜のオムツ交換に二人組で訪問し、大変だったけど喜んで頂けることを励みに誇りを持って仕事をしてきたと話されました。女性ばかりの職場で、皆が仲良く助け合い、ご利用者に感謝される良い仕事に出会い幸せでしたと私たちに教えて下さいました。

現在、四十代から七十代の幅広い世代のヘルパーが、先輩方の培った信用と実績を受け継ぎ、今後次世代を担うヘルパーにもこの思いをつないでいきます。

デイセンター憩の家

家族交流会研修会

主任生活相談員　友國　和之

29年度の事業計画にも記載させていただきました、家族様向けの認知症研修会（家族交流会）を今年の３月末に実施させていただきました。私自身がご家族に対し研修などとは、とてもおこがましいと思いましたが、過去に自身が研修を受け、研究発表のポスターセッションでもご紹介させていただいた「９大法則１原則」（認知症介護のおけるコミュニケーションの方法）をもと進行させていただきました。

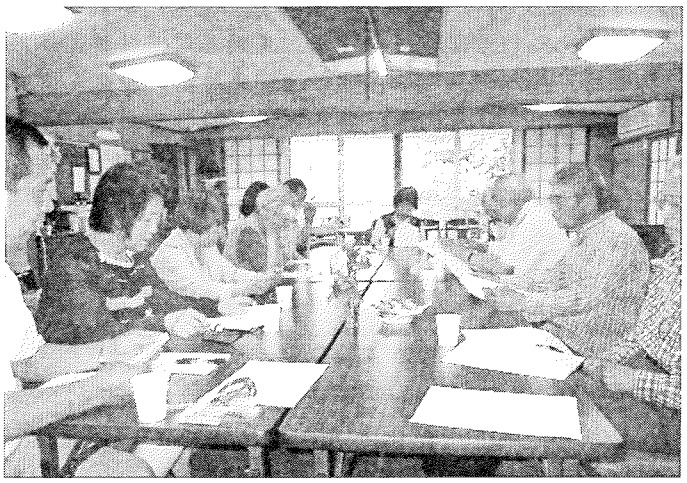
11組13名のご家族がお越しくださり、認知症になられたご本人の行動の意味を知る前に認知症になっても「その人の世界観を大切にする」という事を研修で教えて頂いたことをそのままお伝えさせて戴いました。

内容に皆様とても共感していただき、また私自身が答えられないような具体的な症状のケースなども、ご家族様同士で具体的な話し合いを持ってくださり、共感し合い「このまま本人がどのように変化していくのか不安でした」との声にも家族様同士で話してくださいました。

私だけでは務まらない研修（勉強会）も家族様同士の中から理解を深めようとされる姿勢は真剣そのものでした。

「肩の荷がおりたので、明日から頑張れる」と言ってくださったご家族もおられましたが、日々介護で大変な思いをされていますがご介護されているご家族の楽しみも見つけながら決して無理なさらずに、お過ごしいただくことを願います。

このような機会を私自身も更に勉強しながら続けていきたいと考えております。



研修風景

特別養護老人ホーム　梅寿荘

適切なケアとは何か

介護フロア主任　堀本　卓史

新緑の季節を過ぎ、紫陽花の花が咲き始める季節となりました。梅寿荘では、年度の事業方針を掲げ、歩み始めています。自立支援や重度化対応、看取りなどの専門分野の研鑽に取り組むこと。虐待や緊急など地域の介護ニーズに迅速に対応すること。各種委員会活動や研修を通してご利用者へのケアの質を高めていくこと。今年度の事業方針どれ一つとっても大切なことです。

一方で、業界全体の慢性的人手不足の現状や、重度化に伴う介護量の増加など、様々な要因によって、現場職員は不安を感じているかもしれません。介護は身体も使い、心も遣う仕事です。過度なストレスを防ぐため、必要な人員確保が重要なことは言うまでもありません。同時に、私たち業界全体の専門職一人一人が、目の前のご利用者のニーズに応えるために自ら学び、成長していくことも、人員確保と同じように大切なのだと考えています。

最近読んだ本の中で、「何が適切なケアなのか」を考えることがありました。その書物の中で、「適切なケア」とは、

・ケアに根拠があること
・利用者の利益（健康面・心理面・経済面）を損なわない、利用者の利益になること
・利用者の尊厳を傷つけないこと
・利用者を、責任ある一人の人間として接し、関わること
・それらの条件を満たしていることを第三者に説明して、理解していただけること

とありました。このことは法人理念や、今年度の事業方針にも合致していると感じました。適切なケアを追い求めることが、この仕事の魅力の発信や、ひいては職員自身の負担軽減にもなると確信しています。ケアの根拠を示すには、専門的な学びだけでなく、ご利用者ご家族との関わり、チームケアの取り組みから、様々なことを謙虚に学び、共に歩む姿勢が必要であります。私たちの仕事が何を求められ、何を目指しているのか？このことを意識して、仲間と共に学びを深め、発信し、実践を振り返る年としたいと願います。

児童施設からの報告

児童発達支援　いっぽ

今が踏ん張り所です。

児童発達支援管理責任者　長野　智子

平成30年度に入り、利用児は36名。その内、18名は新規のお子さんです。お母さんと離れるのが悲しくて、思うようにならない事が悔しくて、新しい環境の変化に戸惑って、泣いて怒って疲れて、「早く家に帰りたいよ～！」という心の叫びが聞こえてくる、４月５月の教室風景。この時期、毎年の恒例の風景とはいえ、ここが踏ん張り所の時期でもあるのです。今年度は、職員も大きく入れ替わり、「先生だって泣きたいよ～！」と心の叫びが子どもたちに聞こえないかしら？？と思う瞬間もありました。環境の変化は、保護者はもちろん、職員だって不安なはず。でも、だからといって保護者や子どもを目の前にして、ブレてはいられないのです。必然的に、私自ら現場に張り付いて一緒に動いていく日々です。頭の中にいつもよぎっていたのは、「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」の言葉。有名な山本五十六の言葉です。実は私の教科書的な言葉の１つです。

５月も終わり、子ども達の様子も、少しずつ変化が出てきて落ち着いてきています。子どもや保護者に安心してこれからも通っていただける１年にしたいと思っています。

極楽坊保育園

30年度をステップアップの１年に

幼児部主任保育士　田中　明美

今年度も多くの新入園児を迎え、０歳児や１歳児の保育室からは元気な泣き声が響きわたっていました。２歳児や３歳児の保育室からも、新しい生活や環境に慣れず泣き声が聞かれ、どのクラスの担任も奮闘する毎日でした。例年と変わらないスタートをきった30年度ですが、今年度はいつもと少し違った一年となります。それはいくつかの課題をもった１年だからです。

一つ目は、毎年日曜日に行っていた作品展が土曜日に変更になることです。作品作りの計画や展示の方法、保管の仕方など様々な検討課題があります。

二つ目は、保育指針改定後に行われる「造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会」の公開保育園となり、多くの方が見学に来られることです。昨年度より、このことを踏まえ、保育士は積極的に研修会に参加して、その研修を園内で報告し学びあい、また公開保育での助言者である大阪信愛女学院の原田先生に来ていただき、年齢ごとに保育の中での絵画・造形の取り組み方や考え方、アイデアなどを助言していただいています。年間計画を立て、どのクラスも計画案に沿って毎月保育の中に取り入れ、子どもたちの成長の記録も残しています。今は進行中ですが、その中でも新しい発見があったり、今までの取り組みを違った角度から見つめなおしたりと良い機会になっています。どのようになっていくかはまだまだ試行錯誤の段階ですが、職員一同力を合わせて、ステップアップの１年にしたいと思います。

箱の中にびりびりした紙いっぱい入るかな？

児童発達支援センター 仔鹿園

笑顔の一年に…

園長　岡本　とも子

平成30年度がスタートしました。

子ども達の元気な声が新緑の森に響きわたり、この一年のすこやかな成長を園庭のお地蔵様も見守ってくださることでしょう。

さて、奈良仔鹿園が昨年度に40年を無事に過ごし、たくさんの思い出と経験が今の仔鹿園に受け継げられている事を再確認しましたが、今後も新たな気持ちで取り組んで行きたいと思います。今年度は報酬の改定や法律が一部変更され、３年に一度とは言うものの大変な４・５・６月でした。

子ども達への支援の気持ちは変わらず（あらたな療育を心がけていますが）、保護者に寄り添いながら子どもたちの発達に関わって行きたいと思っています。

４月に出会った仔鹿園の新入園児29名（利用契約数59名）と新着任職員２名（全職員数33名）、ばんび新利用児11名（利用契約数41名）と新着任職員１名（全職員数８名）の「笑顔がいっぱい」の一年にしたいと思います。

平城児童センター

ままだいすきだよ…

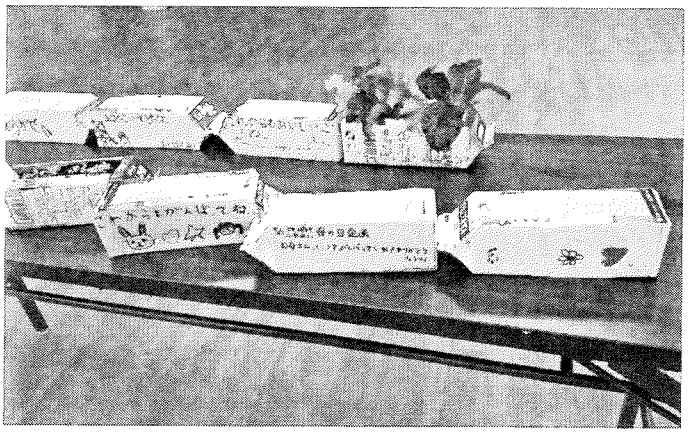
センター長　徂徠　おさむ

平成三十年度の「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」説明会を行いそれぞれのサークルの活動を始めました。

五月十三日の母の日にふれあいの活動があり、「牛乳パックでレタスを育てよう」を行いました。

最初に牛乳パックの注ぎ口をとめ、プランターを作り側面にお母さんに日頃の感謝の言葉（「これからもがんばってね」「これからもおいしいごはん作ってね」「お母さんいつもがんばってくれてありがとう」）等を書きました。

続いて石、培養土や赤玉土を入れレタスの種をまき、薄く土をかぶせ水をやって出来上がりです。４～５日で双葉が出てくるのではさみで切って食べながら育てていきます。当日は大雨でしたが子どもたちはお迎えに来てくれたお母さんに「母の日のプレゼント」と言って手渡していました。これからの一年間季節に応じた様々な活動をしていきたいと考えています。



母の日のプレゼント

でぃあー

変わる一年

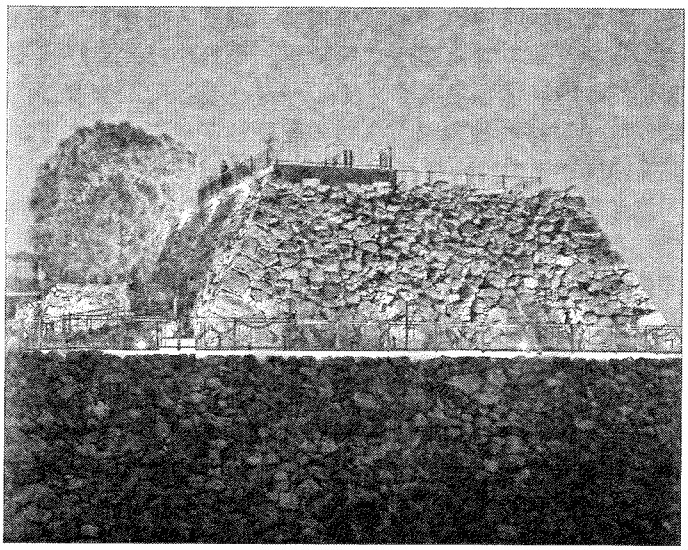
相談員　中村　匡志

皆さまは「青：blue」と言えば何をイメージされるでしょうか。実は、癒しや希望を与えるイメージ色として、自閉症や発達障害の理解のためのシンボルカラーになっています。毎年４月２日の世界自閉症啓発デー、４月２日から８日は発達障害啓発週間に定められています。

この期間を中心に、でぃあーでは今年、もっと身近に発達障害のことを知ってもらう機会づくりを目的に、県内初の奈良市街での啓発ウォークをおこないました。80名近くの当事者・家族・支援者が参加し、道行く方や地域の方への理解を伝えながら歩きました。イオンモール橿原では当事者主体・主役のイベントでは、体験談報告と働きやすさについての意見交換会をおこないました。働きやすさとは何かを真剣に議論し、たくさんの社会への提言をもらいました。この他、ミグランス（橿原市施設）での講演会、県立図書情報館での啓発物と参考図書の展示、大和郡山城天守台のブルーライトアップもおこないました。特に、ライトアップは桜満開の中多くの方が感慨深くまた「なんで青いん？」と不思議そうに見ておられました。

さて、でぃあーは７月に、「リハセン」の愛称で言われる田原本町にある『県障害者総合支援センター』に引越しをします。付近は田んぼ広がり、木々がたくさんある仔鹿園とはまた違う環境になります。引越しとともに、今後５年を掛けて二次的な相談支援センター（支援者・支援機関の支援と困難事案への対応等）として変わる予定です。「発達障害に関する相談は、まずはお住まいの地域で出来ます」がイメージです。専門機関として福祉圏域・市町村ごとの地域に合った形で相談体制を作る計画です。今はその進める方法を練っています。

変わっていく発達障害の相談支援体制。まずは走りはじめの１年、足元をしっかり固めてしっかり準備運動をして取り組んでいきたいです。



今年も青く染まった大和郡山城

いこま乳児院

一人一人に合った関わりを

主任　関口　直見

昨年度は、50周年の節目あたり沢山の方々と乳児院を振り返り、又これからの在り方を考えることが出来た記念の年となりました。

年度末に退所していく子どもの数は年々減少し、今年度も暫定定員に近い人数の子どもたちとのスタートとなりました。昨夏、養育ビジョンの見直しがあったにもかかわらず、一時保護や入所してくる子どもたちの状況は今も変わりはありません。

近年、発達に遅れのある児の受け入れが目につきます。偏食のきつい児、次の行動への切り替えが難しい児、言葉が話せず泣いたり、噛み付いたりして感情を表現してくる児など。ひとり一人に合わせた様々な対応が要求されます。対応の仕方を心理士に相談したり、チームで統一した関わりが出来るように考えながら関わっていますが、経験の浅い職員はやはり児に振り回されてしまう状況に陥ってしまいます。

乳児院の機能強化が求められる今、どのような児でも受け入れ可能な乳児院を目指して、今年度は「関わりの難しい児への対応強化」を目標に掲げました。早速、五月から仔鹿園で指導をお願いして、経験年数の浅い職員から随時研修を実施しています。研修を通して養育スキルのアップとともに、自身の関わり方を振り返る良い機会になればと期待しています。それぞれの職員の学びを共有し、子ども達の『個』をより大切にできる乳児院になれるよう頑張っていきたいと思っています。

愛染寮

地域小規模児童養護施設愛染寮あずさって？
「ちなみに私と同じ年月が経ちました」

児童指導員あずさリーダー　玉田　周平

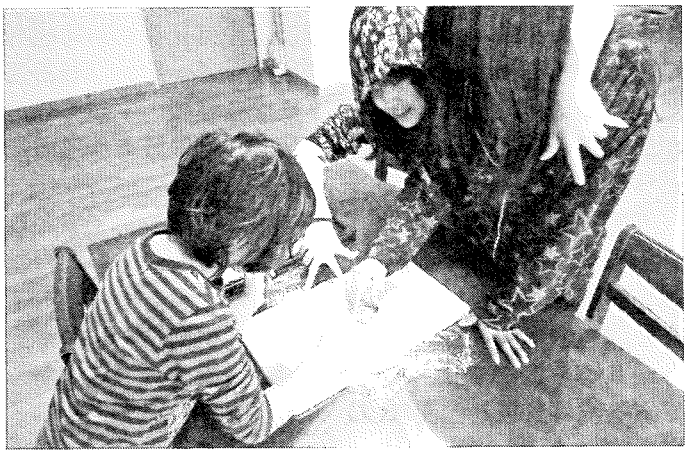
私が愛染寮に勤め始めたのは平成21年４月１日でした。この日はまさに「地域小規模　児童養護施設　愛染寮あずさ」が立ち上がった日です。それから九年が経ちました。昨年度からあずさでリーダーをしていますが、何かめぐりあわせのようなものを感じています。まさか自分があずさのリーダーをする日が来るとは…。

地域小規模はより家庭に近い環境のもと少人数の定員で、これまたより家庭的な雰囲気の中でごくあたりまえの生活をすることを旨としています。今年度は女の子の高校生４名、小学生２名というメンバーで生活していくこととなり、昨年度と全く同じメンバーです。担当職員も変わらず、私が入職以降実は初めてのことです。同じメンバーということで、気心の知れた者同士、和気あいあいと生活を送りたいと思っていますが、やはり思春期の子が多いということで、学校での悩みや不満、恋愛の悩みなどを抱えてくる女子たちに向き合うこの難しさと大変さに、日々苦悩ながら一緒に過ごしている次第です。

高校三年生のＭちゃんは乳児院よりずっと寮で生活し、小六からあずさで暮らしています。彼女は動物園の飼育員になりたいという小さい頃からの夢に向かって、とても大切な進路の選択を迫られています。学校から動物と関係ない仕事に就職するのか、動物関係の資格を取る為に専門学校に行くのか、とても悩んでいます。本人も、進路をどうしようか、寮を出た後の金銭管理が出来るのか、一人暮らしが出来るのかなど、たくさんの不安を抱えながら日々を過ごしている様子が見てとれます。職員として少しでも本人の不安を取り除き、進路について本人としっかり話し合い、納得のいく形で決定し、卒業・卒寮を迎えさせてあげたいという思いです。その為にも、自分自身も多方面から情報を集め、本人にとってより良きものをを提供していきたいと思っています。

そして、さらに「楽しきわが家あずさ」で有り続けるために、本寮とはひと味ちがうテイストで以って、子ども達と共にあずさをコーディネートしていきますので、応援よろしくお願いします。

あずさの和室で、お華のお稽古中！



あずさでクッキーを作る女子たち

いこま乳児保育園

あそびが広がる環境づくり

保育士　尾植　初美

新年度の始まりに、年齢に合わせて室内を区切ったり、優しい色の装飾をしたりして、環境を整えました。安心して遊べるように、今まで慣れ親しんだ玩具を持ち上がって設置しています。私のクラスでも始めに遊んだのは、前のクラスで楽しんでいた電車やままごとでした。不安な様子で登園してきた子ども達の表情が柔らかくなり、線路をつなげたりお皿に食べ物を並べたりして夢中で遊んでいます。そんな姿を受け、さらに「あそび」が発展していく環境づくりの検討を始めました。一人一人の動線や興味のある「あそび」や発達の状況について考え合わせて配置を変え、試行錯誤しながら取り組んでいるところです。

前年度の園内研修で、各クラスの環境づくりを見学し、その意図について伝え合う機会がありました。それはとても参考になっただけではなく、クラスの考えを伝えることで次の課題の発見にもなり、実りのある研修になりました。又、他園の見学で得た知識を共有し合ったり、意見を交換したりして、クラスの見直しをするきっかけにもなりました。

今年度は、発達に合わせた環境づくりを段階的に取り組もうと考え、月案に加え、環境構成図を作成しています。今後も研鑽を積み、一人一人が安心して過ごせるように、人的・物的環境づくりを工夫していきたいと考えています。

落ち着いた空間の中で好きな遊びを楽しむ

こども支援センター あすなろ

お母さんは？お父さんは？

センター長　西野　敦

3月に沢山のこどもたちが卒園しましたが、新年度を迎え、あすなろにも新しいこどもたちも来てくれました。私も今年4月からセンター長を拝命しました。大ベテランの先生を引き継ぐのは大変恐縮ですが、一生懸命努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、「お母さんは？お父さんは？」は何故そう呼ぶようになったのでしょうか？

日本固有の「やまと言葉」では、「お母さん」の「か」は、「火、日」お日様が「かっか、かっか」と燃え上がる様子を表しているそうです。今でも群馬県の上州名物「かかあ殿下と空っ風」の「かかあ」がそれです。

「あ」は生（あ）れの「あ」で、愛のエネルギーで命を生みだすという意味があるそうです。そして、丁寧な「お」「さん」がついて「お母さん」。つまり、「お母さん」は、お日様、太陽と崇められ、太陽の様に明るく光り輝いている存在で、人、動植物の命を育む大きな力を持ち、私たちを暖かく見守ってくださっていると思います。

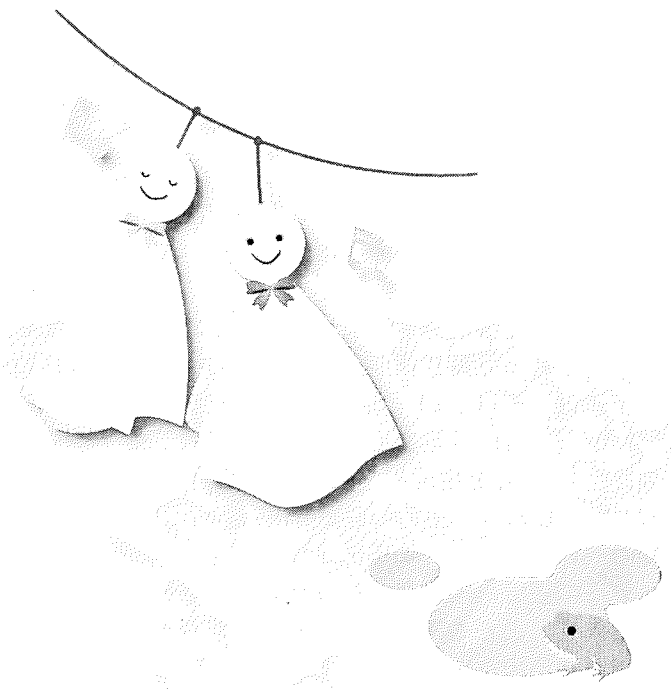
それでは、「お父さん」はどうでしょうか？「とう」とは、尊し、貴し、尊い人に尊敬と丁寧な「お」「さん」がついて「おとうさん」になったそうです。

そして「ひ、ふ、み、よ、いつ、む、なな、や、この、とお。」の「とお」があります。

この場合の「とお」は9＋という意味で数字的に十分満ち足りていることだそうです。

つまり、「お父さん」は心身ともに統合された尊い人という意味だそうです。

お父さん、お母さんには程遠いですが、私たちあすなろの職員は、お父さん、お母さんの心を持って、こどもたちに暖かく寄り添い、個々のこどもたちの日々の成長、潜在的な能力を引き出していこうと思っています。これからも、どうぞ宜しくお願い致します。



あすかの保育園

新年度を迎えて

主任保育士　川﨑　香織

あすかの保育園は自然に恵まれており、周りにはたくさんの公園があります。そこには自治会の方が協力して、たくさんの桜を植えられています。春になるといろんな種類の桜が鮮やかに咲き、素晴らしい景色となり心がホッと癒されます。そんな素敵な春、今年は16名のお友だちが入園し、96名でのスタートとなりました。

あすかの保育園の子ども達は桜の花が咲くと、お花見をしたくてワクワクします。けれど、進級したばかりの2，3歳児クラスは、まだまだ足元がおぼつかずなかなか散歩には出かけられません。そこで頑張ってくれるのが4，5歳児クラスの子ども達。「連れて行ってあげる！」と手をつないで出発！ペアになって優しく付き添ってくれます。みんなで春を身体いっぱいで感じると、新しい環境に不安そうにしていた子も笑顔で帰ってきます。こうしてできた絆は、今度は午睡の時にも発揮します。寂しくなって泣いている乳児さん達ですが、当番でやってきた年長さんが寝かしつけてくれると、安心して眠ります。乳児クラスの保育者からたくさんの『ありがとう』をもらって、誇らしげな年長さんです。今まで、自分たちがしてもらってきたことだから、自然な流れでできるのです。あすかのっ子の素晴らしさを感じる一幕です。

平成30年4月より新保育指針が施行されました。私たちも昨年度より勉強会を重ねてきました。各々の保育を見直し、ひとり一人の子どもの発達をしっかりと保証していけるよう、より専門性を高めていきたいと考えています。私自身も4月より主任をさせていただくことになりました。子ども達や保護者の方々が『あすかの保育園が大好き』と思ってもらえるように努力していきたいと思います。また、職員が安心して保育に取り組めるよう、働きやすい職場になるよう、環境を整えてサポートしていきたいと考えています。

いっしょにおさんぽ

いこまこども園

こども園2年目を迎えて

園長　米田　恵美子

幼保連携型認定こども園が開設され2年目を迎えました。

昨年は、これまでに経験のない幼稚園の制度を採り入れるために、たくさんの方々からご指導をいただき、無事1年を終えることが出来ました。また三月には、五歳児60名がこども園1期の卒園児として15の小学校へと巣立っていきました。

今年は、社会情勢や子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、教育・保育要領が大きく変わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」が新たに出されました。「健康な心と体」「自立心」「共同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然とのかかわり・生命の尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」と、この姿は高校卒業時の18歳までの各校種を経て接続されます。こども園においても、小学校への接続むけて0歳児からの就学前の子ども達のカリキュラムを作成して臨んでいるところです。また子ども達が話し合い、主体的に活発な活動をするために、アクティブラーニングを採り入れた保育内容になるよう求められています。毎年5月中旬ころには、新入、進級児も新しい環境に慣れ、生駒山上遊園地への遠足を皮切りに、お泊り保育、プール開き、夏まつりと、楽しみにしている行事が始まります。一人ひとりの子ども達が考えながら主体的に行事に参加できるような環境づくりをし、発達に応じた教育・保育を展開していきます。

秋には、生駒市の待機児解消施策による、0歳児保育室増築工事が始まる予定です。安心安全に心がけ、周りの方々からご協力をいただきながら職員一同力を合わせ、事業計画を進めて参りたいと思います。

人事

平成30年度 新採用正規職員

延寿
大賀綾子　介護職員
道前淳子　看護師
満﨑彰弓　看護師
松井裕美　介護職員
宮永文代　介護職員
鈴木一成　介護職員
弓指康子　事務員

梅寿荘
松村千鶴　看護師
前村光則　介護職員

あくなみ苑
松本未来　介護職員
後藤千波　介護職員
蓮本響流　介護職員
伊藤みゆき　介護職員
奥田淳子　介護職員
平田真一郎　事務員

梅寿荘デイセンター
加納久　介護職員

デイセンター憩の家
大石幸子　介護職員

梅寿荘居宅介護支援センター
小出弘美　介護支援専門員

はあとぽーと梅寿荘
浦谷展代　介護支援専門員
角元薫里　訪問介護員
南林敏美　訪問介護員

愛染寮
酒井みらい　保育士
濱岡亜弥　保育士

乳児院
豊田実来　保育士
磯部ななか　保育士
石村佐恵　保育士

極楽坊保育園
中村明日香　保育士
古城祐佳　保育士

いこまこども園
西浦正翁　副園長
奥村葵　保育教諭
米田紗矢香　保育教諭
友澤有沙　保育教諭

いこま乳児保育園
上野明日美　保育士
城山裕恵　保育士

あすかの保育園
田中瑞季　保育士
吉田寛子　栄養士
山田麻里子　調理師
佐野愛　調理師

仔鹿園
田代有沙　保育士
鍋島香那　児童指導員

こども支援センターあすなろ
西野敦　センター長

平成30年度 異動職員

いこま乳児院⇒愛染寮
後藤絵美　保育士

愛染寮⇒仔鹿園
藤田麻里子　保育士

仔鹿園⇒こども支援センターあすなろ
清家早香　社会福祉士

仔鹿園⇒こども支援センターあすなろ
早﨑颯馬　保育士

仔鹿園⇒でぃあー
長尾知草　社会福祉士

あくなみ苑⇒延寿
石井恵　介護職員

平成30年度 退職者

延寿
守野茉希　介護職員
伊藤久美子　看護師
辻本政子　看護師
高本純子　介護職員
數下幸也　介護職員

梅寿荘
西野陽子　介護職員
板橋容子　准看護師
菊地幸代　介護職員
金子美佳　支援員

あくなみ苑
髙田裕之　施設長

梅寿荘デイセンター
岩田悠　生活相談員

愛染寮
五十嵐俊　保育士

いこま乳児院
村田千賀子　調理師
竹中眞美　保育士

こども支援センターあすなろ
吉貝佳菜　保育士
大西清司　センター長

あすかの保育園
小林道子　調理師
岩本登美子　園長
松野莉子　保育士
村田珠恵　保育士
柳田理絵　管理栄養士

いっぽ
岡田美和　保育士

極楽坊保育園
荒井典子　保育士
小山香　保育士
吉留佑実　保育士
柿坂正子　調理師
冨士華恵　保育士

いこま乳児保育園
平井千晶　保育士
佐々木絵梨　保育士
泉尾紗矢佳　保育士

仔鹿園
岡本史　保育士

いこまこども園
伊豆田莉加　保育教諭
乾智香　保育教諭
神道味里　保育教諭
森川清子　主幹保育教諭

施設長就任挨拶

老人総合福祉施設 あくなみ苑
施設長 田中将史

施設長就任ご挨拶

4月より老人総合福祉施設あくなみ苑の総合施設長に就任いたしました田中と申します。

これまではケアハウスとデイサービスセンターの施設長として勤めてまいりましたが、前任の髙田苑長の定年退職に伴い、あくなみ苑全体を管理するように仰せつかった次第でございます。

あくなみ苑に勤めて20年以上が経ちますが、その半分以上を髙田苑長の下で勤めてきましたので、やはり私の管理者としての基本的な考え方は、髙田苑長の影響を大きく受けていると思います。先代理事長の話や現理事長の若かりし頃の話をたくさん聞かせていただき、今の法人の原動力がどのようにして生まれてきたのか、法人に携わった多くの先輩達と大変だったことや苦労した経験を面白おかしく話していただいた事は私の宝物です。また、管理者とはどうあるべきかとよく教えていただきました。

私が総合施設長に就任したからといって、基本的な考え方が前苑長と変わらないので、急にあくなみ苑が変わることはありません（恐らく前苑長は気に入らないと思いますが）。ただその方法は違うと思いますので、少しずつあくなみ苑が更なる高みを目指し、地域に必要にされる施設だけでなく、地域の皆様に愛される施設になれるよう施設づくりに励んでいく所存でございます。

どうぞこれからのあくなみ苑をよろしくお願い申し上げます。

こども支援センターあすなろ
センター長 西野 敦

母子（親子）は同時に生まれる。

私は、今年の3月に市役所を定年退職し、この度ご縁を頂き、4月からこども支援センター あすなろのセンター長を拝命致しました。まだまだ、毎日が初めてのことばかりで、施設の先生方をはじめ、法人の皆さま方に大変ご迷惑をおかけしている日々ですが、一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、「母子（親子）は同時に生まれる。」という言葉がございます。

子どもができて初めて、母と呼ばれ、父と呼ばれ、親になれます。兄姉と呼ばれるのも弟妹がいてくれるからです。職場で先輩と呼ばれるのも後輩ができたお蔭なのです。

私たちは、あすなろに来てくれている子どもたちがいるからこそ、子どもたち、保護者から初めて先生と呼ばれ、子どもたちのお母さんやお父さんとの繋がりができるのだと思います。

このように自分自身は変わらないのに周りの人との関係、立場で、自分自身が変わります。言い換えれば、他者がおられるお蔭で、自分自身が存在する、人に生かされている自分がいるのだと思います。

子どもたち、保護者、職場の皆さん方をはじめ、全ての出逢えた人に感謝し、個々の子どもたちに寄り添いながら、その成長していく個性、能力を最大限に引き出すことができていければと願っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

あすかの保育園
園長 小林美香

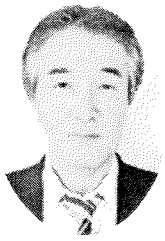
心あらたに

あすかの保育園は、昭和57年に開園しました。私はその年の夏、初めての実習生として受け入れて頂きました。真新しい園舎に、子どもたちの声が響き渡り、園長先生を含め、8名の職員の方たちが、子どものことを考え日々保育されていたことを思い出します。子どもたちがどうしたら毎日楽しく過ごせるのか？今思えば学生の私にはまだまだ未知の世界だったのですが、きっと色々考えておられたと思います。

さて今年37回目の入園式を迎えました。この間にけいはんな線の開通に伴い、地域の様子や保護者のニーズも変わってきました。今何が求められているのか考えていくことも重要になりますが、子どもを中心に置いて、保護者と共に手をたずさえて考えていくことには変わりがありません。

今年は保育指針の改訂がありました。特に乳児期の保育の内容を充実させていくことが掲げられています。また保育者が一人ひとりの子どもの心の基地となるような養護ができるように求められています。あすかの保育園の園長に就任の年にこの改訂があることも、何かの縁だと考えます。子どもたちがすくすくと伸びやかに育ち、子どもの人生を充実させるために、子どもを愛し、受け止め、見守りながら、大事に保育できる環境を作りたいと思います。そして子どもも、大人も毎日笑顔ですごすことができるように、日々努力をしてまいりたいと思います。今後ともどうぞご指導よろしくお願い致します。

副園長・事務長 就任挨拶



いこまこども園
副園長　西浦正翁

吉報は思わぬところから

小学校勤務三十余年、60歳で定年退職をしました。その間いろいろな出来事に遭遇し、多くの仲間や地域の方々に助けを頂き、元気に楽しく過ごせたことが心に残っています。「人は人と人との間で人となる」と言われますが、仕事で行き詰まりどうにもならず、いくら考えても良い答えが浮かんでこない。そんな時、周りの人や同僚の一言・アドバイスで違った角度からの「ものの見方・考え方」に気づかされたことがありました。「なかま」の良さ・大切さがわかった瞬間でした。

その後、奈良市立幼稚園の嘱託園長として5年間勤務しました。小学校とは違い驚きを覚えました。教務主任がいません。事務職員がいません。そしてチャイムの音が聞こえてきません。弁当持参の毎日です。でも園児たちの笑顔や眼差しに喜びや嬉しさを感じました。「ありがとうございました」とお礼が返ってきます。「ごめんなさい」が言える。「おはようございます。ありがとう」の挨拶をする。

「人生で必要な知恵は、すべて幼稚園の砂場で学んだ」－ロバート・フルガムーの言葉が浮かんできました。幼児教育の大切さを自分自身が学ばせてもらいました。

その時、吉報は思わぬところから頂きました。感謝！

いこまこども園副園長の辞令をいただき、法人の仲間入りをさせていただき「興法利生」の教えのもと、あすの日本を背負っていく園児たちの今を保育・教育していきたいと思います。「園児の笑顔を消さないように」

特別養護老人ホーム　梅寿荘
事務長　東口謙

散り初めの桜の下で

再就職二日目の朝、松岡次長から「今日、サルカトのお花見について行ってくれますか」との下命を受け、〝サルカト？〟〝お花見？〟……。頭に〝？〟マークを三つほど着けて次長の顔を見ていたら、「取り敢えず行ってみてください」と……。介護の素人の私に何ができるんだろうと思いながらバスに乗り込みました。

今年は桜の開花が早く、散り初めの花びら舞う平城宮跡は、入所者の方々の笑顔が満開。やがてお弁当の時間になり、今井主任生活相談員やサルビア・カトレアユニットの介護職員らのテキパキとした行動により、宮跡の庵のような一画で〝平城宮跡花見の宴〟が始まりました。植田リーダーをはじめ介護職員がマンツーマンで入居者様それぞれの食事ペースに合わせて、ゆっくり丁寧に心を込めて食事が進んでいきます。笑顔を絶やさず、優しい言葉を常にかけながら食事介助をしている職員たちを見ていて、「自分は母親にこれだけのことをしてあげられたか」との思いもあり熱いものを感じ、散り初めの桜が滲んで揺れていました。さらに私を驚かせたのは、左手では常に体を支えての食事介助をしながら、自分もお弁当を平らげていたことです。食事休憩がとれない状況であれば、プロなら当然なのかもしれないですが、その鮮やかな仕事ぶりに感銘を受けました。

この感動と感銘を胸に、ご縁を頂きました法人・梅寿荘の皆様のお役に立てますように努力してまいりますので、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

『ひめゆり講座』好評開講中！

平成27年7月から始めたこの公開講座は、毎月第4金曜日に開催し続け、はや30回を数えています。「私たちが普段おこなう仕事のことが、何か地域に還元できないだろうか？」そんな視点で、法人高齢者部門全体で取り組んでいる公開講座です。

「自助具の工夫は」「認知症ってどんな病気」「複雑な制度について」など、一般には知られていないことでも私たち法人職員は仕事柄、詳しく勉強しています。家族のことで、或いは自分自身のことで、様々な介護福祉の気になる情報を分かり易くお伝えする講座となっています。いつも10～20人くらいの出席をいただく講座の雰囲気は、アットホームで初めての方でも気軽に参加できるものになっています。私も講話することがありますが、いつもご出席いただく常連さんも何人かお見かけします。ちょっと勉強に、ちょっと時間が空いてるから、それぞれの動機でかまいませんので1度のぞきに来てみて下さい。

梅寿荘　松岡利和

ひめゆり講座の風景

年内の講座予定

7月28日、8月24日、9月28日、10月26日、11月22日
＊毎月第4金曜　14時~15時（12月はお休みです）
＊テーマは「高齢者疑似体験」「認知症」「福祉避難所」など介護福祉に関するものです
＊場所はすべて、総合支援センター　あずさ（西旭ヶ丘12の3）2階

新任職員からの一言

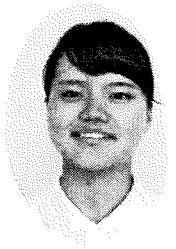
老人総合福祉施設 あくなみ苑
介護職 奥田 淳子

日々感謝

あくなみ苑でお世話になり、早いもので1ヵ月が過ぎました。利用者様一人ひとりがとてもフレンドリーに接してくださり、名前も呼んでくださるのでうれしく、楽しい日々を過ごしています。業務面ではまだまだ覚えることがたくさんあり慌てている自分に優しく指導くださる先輩職員の皆様には日々感謝感謝の連続です。また、人生の大先輩である利用者様に時には相談にのってもらいやさしい言葉をかけてくださり肩の荷が下りたこともありました。

仕事をする上で大切にしていることは、人として思いやりの気持ちを忘れず取り組む事です。思いやる気持ちと言いましたが、「相手を思いやる」ことは簡単なようで実はすごく難しいと考えています。人それぞれ感情があり個性があり皆が同じではないからです。利用者様一人ひとりの個性を理解しサポートしていきたいと考えています。そして介護の知識面でまだまだ不足しているため介護福祉士の資格をとり、より専門的に日常のサポートをしていきたいと考えています。

私の好きな歌手の歌に「Naked（ネイキッド）」という曲があります。ありのままの心をさらけ出してぶつかり合うことが大切だという詩です。早く仕事を覚えることはもちろん大切な事だと思いますが、覚えの悪い私は人一倍努力が必要で既に先輩方に迷惑をかけています。ですが、自分を見失わず、けれどがむしゃらにマイペースにありのままに邁進していきますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。



あすかの保育園
保育士 田中 瑞季

夢を叶えて

わたしは、保育士になることが小学生からの夢でした。自分が通っていた保育園の先生に憧れてこの道に進みました。ただ、大学4年生になってもなかなか就職したいと思える園を見つけられずにいました。そんな中、ある就職フェアでこの宝山寺福祉事業団に出会いました。とても明るく元気な先生方が本当に楽しそうに紹介をしてくださったのが印象に残っています。わたしは、こんな先生になりたい。こんなところで働けたら楽しいだろうなと素直に感じました。実際、就職前にあすかの保育園に見学や体験実習に来た時にも子どもたちが「誰～？なんていう名前？」「新しい先生？」と次々に声をかけてくれてとても嬉しかったのを覚えています。

今、宝山寺福祉事業団の一員として夢を叶え、働き始めて、毎日が初めての連続で大変なこともたくさんありますが、子どもたちと過ごすことができて、本当に楽しいです。子どもたちは、元気で純粋でとても可愛いです。特に、担任をしている1歳児は日々できることが増え、新しい表情を見ることができます。昨日できなかったことが今日できるようになる。昨日伝わらなかったことが今日は分かるようになる。そういう子どもたちのかけがえのない瞬間に携われることは本当に幸せなことだと思います。

まだまだ分からないことだらけですが、先輩の先生方のように、憧れた先生のようになれるよう、子どもたちとともに、成長していきたいです。

児童発達支援ばんび
鍋嶋 香那

今までの私、これからの私

私は、小さい頃から子どもに関わる仕事がしたいと思い、また中学の時に養護施設で育った経験のある友達に出会ったことから将来は福祉の道に進むことを決めました。大学では福祉全般を学び、重度訪問介護従事者とガイドヘルパーの資格を取得したことから障害について関心を持つようになりました。昨年、就活をしている時に療育の体験をしたことがきっかけで療育に関わりたいと思うようになり、仔鹿園を訪れました。園長先生はとても気さくな方で、園の雰囲気も良く、また職員の方の働く姿を見て、私もここで働きたいと強く思うようになりました。そして、この春から念願だった仔鹿園で働いています。ここでは、新人の私でもたくさんの経験を積むことができ、様々なことに挑戦する機会を与えてくれます。今は子どもとの関わり方や向き合い方などまだまだたくさんのことを勉強中ですが、職員の方や保護者の方にも助けられながら毎日多くのことを吸収することができ、とても充実しています。私は仔鹿園で働きながら、子どもの成長の基盤を築く大事な時期に関わっていることの責任を感じながら、保護者の方と共に子どもの明るい将来へ繋がる支援をしていきたいです。そのためにも様々なことを勉強し、たくさんの経験を積むためにも挑戦することを惜しまず、努力していきます。

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書
（自）平成29年 4月 1日（至）平成30年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			予算(A)	決算(B)	差異(A)－(B)	備考
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	1,627,964,000	1,613,972,778	13,991,222	
		老人福祉事業収入	116,522,000	129,582,418	△ 13,060,418	
		児童福祉事業収入	391,174,000	391,799,331	△ 625,331	
		保育事業収入	761,569,000	775,011,716	△ 13,442,716	
		障害福祉サービス等事業収入	418,104,000	423,323,137	△ 5,219,137	
		その他事業収入	8,277,000	8,140,034	136,966	
		借入金利息補助金収入	978,000	966,665	11,335	
		経常経費寄附金収入	10,716,000	11,556,860	△ 840,860	
		受取利息配当金収入	1,978,000	2,240,748	△ 262,748	
		その他の収入	33,531,000	33,959,511	△ 428,511	
		事業活動収入計(1)	3,370,813,000	3,390,553,198	△ 19,740,198	
	支出	人件費支出	2,477,937,000	2,453,570,980	24,366,020	
		事業費支出	472,892,000	455,408,711	17,483,289	
		事務費支出	316,373,000	299,007,707	17,365,293	
		支払利息支出	1,517,000	1,514,535	2,465	
		その他の支出	19,531,000	19,194,415	336,585	
		流動資産評価損等による資金減少額	54,000	53,158	842	
		事業活動支出計(2)	3,288,304,000	3,228,749,506	59,554,494	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)－(2)		82,509,000	161,803,692	△ 79,294,692	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	14,657,000	14,683,555	△ 26,555	
		固定資産売却収入	1,140,000	1,140,000	0	
		施設整備等収入計(4)	15,797,000	15,823,555	△ 26,555	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	31,504,000	31,500,000	4,000	
		固定資産取得支出	67,298,000	66,756,310	541,690	
		固定資産除却・廃棄支出	60,000	50,976	9,024	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	3,373,000	3,369,312	3,688	
		施設整備等支出計(5)	102,235,000	101,676,598	558,402	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)－(5)		△ 86,438,000	△ 85,853,043	△ 584,957	
その他の活動による収支	収入	投資有価証券売却収入	6,000	5,107	893	
		積立資産取崩収入	65,690,000	68,130,775	△ 2,440,775	
		その他の活動による収入	45,000,000	22,000,000	23,000,000	
		その他の活動収入計(7)	110,696,000	90,135,882	20,560,118	
	支出	積立資産支出	144,730,000	153,230,000	△ 8,500,000	
		その他の活動による支出	160,000	160,000	0	
		その他の活動支出計(8)	144,890,000	153,390,000	△ 8,500,000	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)－(8)		△ 34,194,000	△ 63,254,118	29,060,118	
予備費支出(10)			857,000	—	857,000	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)－(10)			△ 38,980,000	12,696,531	△ 51,676,531	
前期末支払資金残高(12)			701,488,000	701,492,015	△ 4,015	
当期末支払資金残高(11)+(12)			662,508,000	714,188,546	△ 51,680,546	

第二号第一様式

法人単位事業活動計算書
（自）平成29年 4月 1日（至）平成30年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)－(B)
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	1,613,972,778	1,623,417,398	△ 9,444,620
		老人福祉事業収益	114,523,568	112,354,061	2,169,507
		児童福祉事業収益	391,799,331	372,889,633	18,909,698
		保育事業収益	775,011,716	735,404,038	39,607,678
		障害福祉サービス等事業収益	423,323,137	387,682,649	35,640,488
		その他事業収益	8,140,034	12,415,235	△ 4,275,201
		経常経費寄附金収益	11,556,860	11,633,508	△ 76,648
		サービス活動収益計(1)	3,338,327,424	3,255,796,522	82,530,902
	費用	人件費	2,456,936,388	2,438,671,101	18,265,287
		事業費	436,719,086	429,517,113	7,201,973
		事務費	299,007,707	289,562,376	9,445,331
		減価償却費	214,827,568	178,461,211	36,366,357
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 128,002,037	△ 104,694,500	△ 23,307,537
		徴収不能額	53,158		53,158
		徴収不能引当金繰入	2,613,099		2,613,099
		サービス活動費用計(2)	3,282,154,969	3,231,517,301	50,637,668
	サービス活動増減差額(3)=(1)－(2)		56,172,455	24,279,221	31,893,234
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	966,665	1,153,355	△ 186,690
		受取利息配当金収益	2,240,748	2,856,034	△ 615,286
		投資有価証券評価益	1,265,490	2,096,194	△ 830,704
		投資有価証券売却益	295		295
		その他のサービス活動外収益	33,959,511	32,860,105	1,099,406
		サービス活動外収益計(4)	38,432,709	38,965,688	△ 532,979
	費用	支払利息	1,514,535	1,939,905	△ 425,370
		投資有価証券評価損	340,979	6,012,100	△ 5,671,121
		投資有価証券売却損		700	△ 700
		その他のサービス活動外費用	22,463,438	17,769,311	4,694,127
		サービス活動外費用計(5)	24,318,952	25,722,016	△ 1,403,064
	サービス活動外増減差額(6)=(4)－(5)		14,113,757	13,243,672	870,085
経常増減差額(7)=(3)+(6)			70,286,212	37,522,893	32,763,319
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	14,683,555	8,924,000	5,759,555
		固定資産受贈額	1,949,884	621,840	1,328,044
		その他の特別収益	42,805,455		42,805,455
		特別収益計(8)	59,438,894	9,545,840	49,893,054
	費用	固定資産売却損・処分損	95,106	450,874	△ 355,768
		国庫補助金等特別積立金積立額	14,683,555	10,720,000	3,963,555
		その他の特別損失	1,346,246		1,346,246
		特別費用計(9)	16,124,907	11,170,874	4,954,033
	特別増減差額(10)=(8)－(9)		43,313,987	△ 1,625,034	44,939,021
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			113,600,199	35,897,859	77,702,340
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		1,099,738,275	939,690,416	160,047,859
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		1,213,338,474	975,588,275	237,750,199
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)		41,500,000	177,500,000	△ 136,000,000
	その他の積立金積立額(16)		130,230,000	53,350,000	76,880,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)－(16)		1,124,608,474	1,099,738,275	24,870,199

第三号第一様式

法人単位貸借対照表
平成30年 3月31日現在

（単位:円）

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	903,459,290	816,808,341	86,650,949	流動負債	325,182,311	239,997,034	85,185,277
現金預金	498,101,669	424,715,103	73,386,566	事業未払金	150,383,970	83,224,646	67,159,324
事業未収金	357,543,018	332,056,210	25,486,808	その他の未払金	0	16,986	△ 16,986
未収金	624,812	82,241	542,571	１年以内返済予定設備資金借入金	31,500,000	31,500,000	0
未収補助金	46,257,402	56,674,098	△ 10,416,696	１年以内返済予定リース債務	5,252,352		5,252,352
貯蔵品	41,028	69,609	△ 28,581	預り金	4,224,345	2,934,987	1,289,358
立替金	807,710	233,412	574,298	職員預り金	37,275,528	29,139,707	8,135,821
前払金	1,679,939	1,961,749	△ 281,810	賞与引当金	96,546,116	93,180,708	3,365,408
前払費用	1,016,811	855,919	160,892				
その他の流動資産	0	160,000	△ 160,000				
徴収不能引当金	△ 2,613,099		△ 2,613,099				
固定資産	5,319,826,456	5,350,213,363	△ 30,386,907	固定負債	219,212,707	228,956,450	△ 9,743,743
基本財産	3,199,600,763	3,331,470,459	△ 131,869,696	設備資金借入金	76,500,000	108,000,000	△ 31,500,000
土地	323,061,540	323,061,540	0	リース債務	25,387,032		25,387,032
建物	2,872,394,223	3,005,068,919	△ 132,674,696	長期預り金	117,325,675	120,956,450	△ 3,630,775
投資有価証券	4,145,000	3,340,000	805,000	負債の部合計	544,395,018	468,953,484	75,441,534
その他の固定資産	2,120,225,693	2,018,742,904	101,482,789	純資産の部			
土地	4,433,872	4,433,872	0	基本金	778,885,360	778,885,360	0
建物	20,208,927	34,315,503	△ 14,106,576	第１号基本金	248,979,012	248,979,012	0
構築物	45,890,178	43,934,058	1,956,120	第２号基本金	513,200,000	513,200,000	0
機械及び装置	357,284	1,036,527	△ 679,243	第３号基本金	16,706,348	16,706,348	0
車輌運搬具	10,038,290	10,359,019	△ 320,729	国庫補助金等特別積立金	2,048,489,688	2,181,267,379	△ 132,777,691
器具及び備品	74,853,244	71,998,971	2,854,273	その他の積立金	1,726,907,206	1,638,177,206	88,730,000
有形リース資産	30,732,263		30,732,263	人件費積立金	165,250,000	160,800,000	4,450,000
ソフトウェア	2,199,045	3,257,265	△ 1,058,220	施設整備等積立金	1,194,230,000	1,150,350,000	43,880,000
投資有価証券	86,989,709	90,144,033	△ 3,154,324	ひめゆり基金運営積立金	17,980,000	16,080,000	1,900,000
長期預り金積立資産	117,325,675	120,956,450	△ 3,630,775	社会福祉事業等運営積立金	198,700,000	161,200,000	37,500,000
人件費積立資産	165,250,000	160,800,000	4,450,000	公益事業等運営積立金	112,865,000	111,865,000	1,000,000
施設整備等積立資産	1,194,230,000	1,150,350,000	43,880,000	福祉基金積立金	37,882,206	37,882,206	0
ひめゆり基金運営積立資産	17,980,000	16,080,000	1,900,000	次期繰越活動増減差額	1,124,608,474	1,099,738,275	24,870,199
社会福祉事業等運営積立資産	198,700,000	161,200,000	37,500,000	（うち当期活動増減差額）	113,600,199	35,897,859	77,702,340
公益事業等運営積立資産	112,865,000	111,865,000	1,000,000				
福祉基金積立資産	37,882,206	37,882,206	0				
差入保証金	290,000	100,000	190,000				
その他の固定資産	0	30,000	△ 30,000	純資産の部合計	5,678,890,728	5,698,068,220	△ 19,177,492
資産の部合計	6,223,285,746	6,167,021,704	56,264,042	負債及び純資産の部合計	6,223,285,746	6,167,021,704	56,264,042

法人苦情第三者委員会

３月21日に苦情第三者委員会で法人施設を代表して、梅寿荘施設長、生駒市梅寿荘地域包括支援センター長、極楽坊保育園園長の３人より、H 29 年度の苦情等解決受付及び処理状況について報告しました。
当法人内 20 施設の窓口で受けた苦情等の合計件数は、60 件でした。

【H29 年度　法人内全施設苦情等集計状況】

宝山寺福祉事業団　苦情等第三者委員名簿

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

谷口　誠	法人評議員 元メディカルセンター事務局長	新田　一郎	法人評議員 宝山寺事務長
宮本しげ子	法人評議員 奈良県更生保護女性連盟理事	宮本　和子	元いこま乳児保育園園長
中尾　髙章	法人監事 元奈良コンベンションビューロー副理事長	上田　利雄	元生駒市社会福祉協議会事務局長

編集後記

大好きな５月が廻って来たというのに真夏日がやってきたり肌寒い日が続いたりと、風薫る爽やかな季節の短さや早い梅雨入りに少し、うらめしさを感じながら子どもたちや高齢者の皆様方のご様子が気にかかる日々でした。

ジメジメとした蒸し暑さで体調を崩さないようにするためには毎朝決まった時間に起床することが大切だと言われています。過度な水分補給も体が冷えて逆効果とのこと。

室内でも出来る「その場足踏み」で血流を良くしてぐっすり眠り、この梅雨を元気に乗り切りましょう。

編集委員　　森本